

始



特 248

198

栗原寅次郎先生校閲

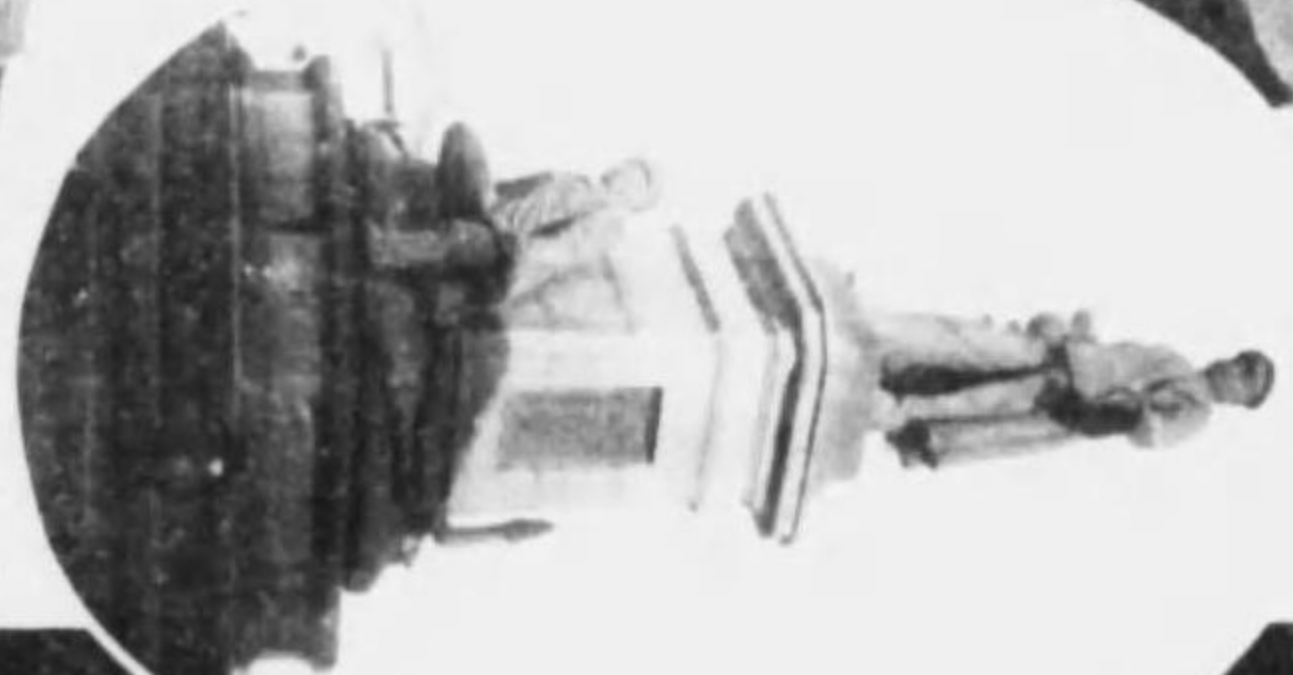
われらの神田

3
1

特248
198



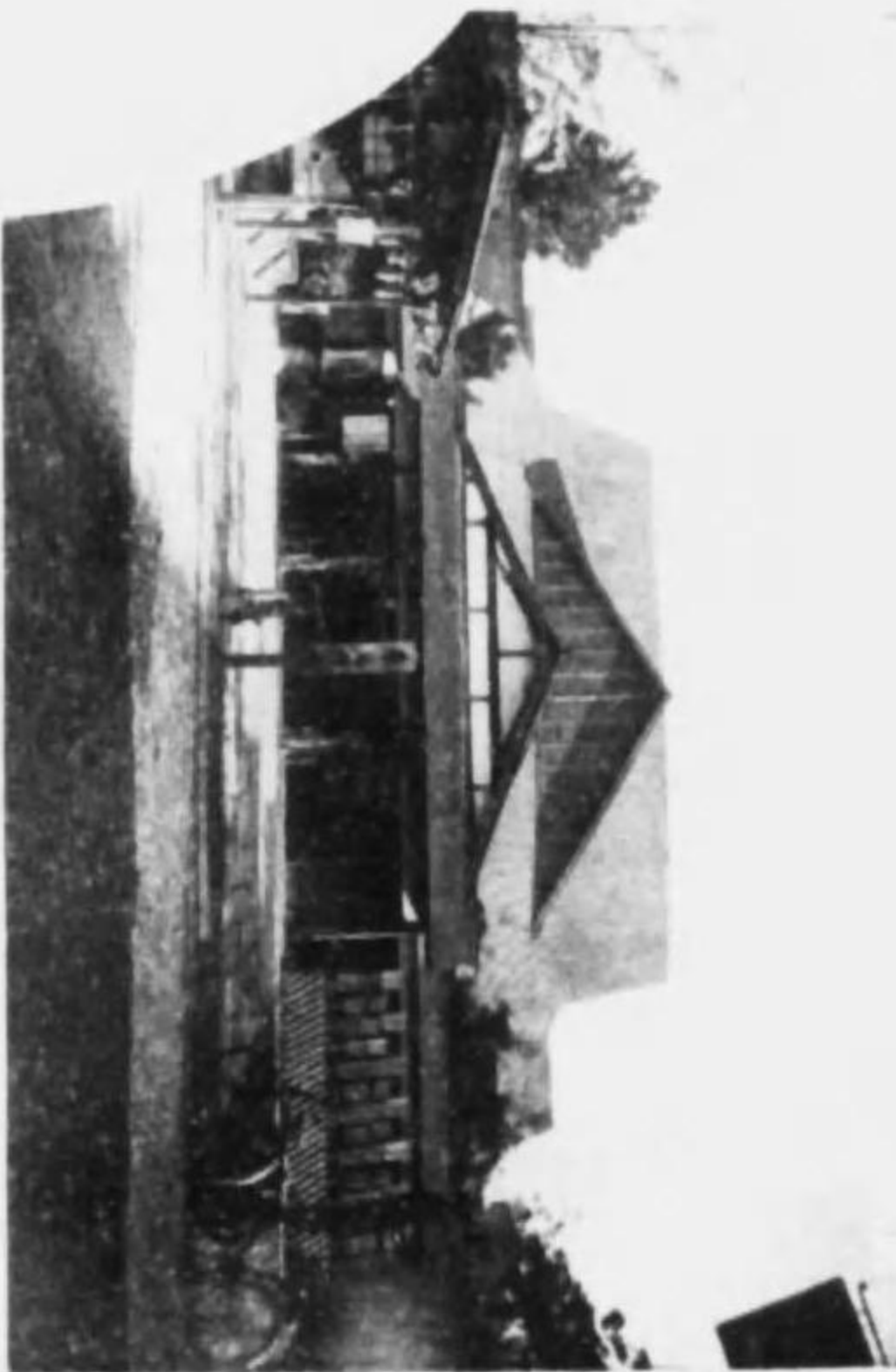
(川田神ルタ見ヨ橋聖)



像刻ノ佐中津波



(驛屋業株)



(社神田神)



(ノ道町停神田神)



もくろく

| | | |
|----|---------|---|
| 一、 | 神田の名の起り | 一 |
| 二、 | 位置 | 二 |
| 三、 | 地勢 | 三 |
| 四、 | 産業 | 六 |
| 五、 | 交通 | 四 |
| 六、 | 諸官衙學校 | 九 |
| 七、 | 神社 | 二 |
| 八、 | 沿革 | 四 |
| 九、 | 町名 | 六 |



一〇、名所史蹟……………二八
 一一、名人名家……………三三
 一二、政治……………三五

我等の神田

神田の名の起り

われらの神田の名はどうして出来たか、といひますと。それは此地は遠い遠い大昔に我國第一の社である皇太皇宮に毎年新しいお米を奉るために作つた田であつたので「神田」とよんだのであります。その神田が神田とよばれる様になつたといひます。

その「神田」は此地ばかりでなくて國々にいくつか宛あつたものだそうです。

また千年あまり前に出雲氏族（出雲に住んでゐた人々）が武藏の國造といふ（今でいひますと縣知事）の役をいひつけられて此地においてになつたが其氏族の一人眞神田臣といふ立派な人があつて此人が御先祖の大國主命（一石大己貴命）を氏神としてお祀りをしたのが豊島郡の芝崎村（又は神

| 神田區 | 極東 八名川町 | 極西 三崎町三丁目 | 極南 鍛冶町 | 極北 五軒町 |
|-------|---------|-----------|--------|--------|
| 面積…△印 | | | | |
| 人口…×印 | | | | |
| 大森區 | △ | △ | △ | △ |
| 品川區 | × | × | × | × |
| 荏原區 | × | × | × | × |
| 目黒區 | × | × | × | × |
| 蒲田區 | × | × | × | × |
| 世田谷區 | × | × | × | × |

田村)でこの社を神田明神といったのが神田神社の始まりでありまた神田の名の起りであるともいひます。

位 置

此の神田は東京市のほゞ真中にあつて宮城の東北にあります。西南には麴町區があり東南には日本橋西北には本郷區と小石川區があります。又東北には下谷淺草の二つの區が連つて東京市三十五區の中六區までがこの神田區に接してゐます。

面積と區分、人口

然しこのわれらの神田は面積は三、一〇〇方呎の東京市三十五區の中最も小さい區であつて東京市五五〇、二四八平方呎に比べて見ると百七十八分の一といふ割合になつてゐます。

ですから最も幅の廣いところ 漸く東西二、七六七呎南北一、六三七呎に過ぎないのであります。

この神田區には町數は八十五に分れてゐて町々には町會などがあつて町

| | |
|------|--------|
| 澁谷區 | 一五、三三六 |
| 神田區 | 二九、九六六 |
| 麹町區 | 八、七二二 |
| 江戸川區 | 四六、〇〇〇 |
| 葛飾區 | 三三、七六六 |
| 龜戶區 | 一〇、一七七 |
| 隅田區 | 一五、五二九 |
| 足立區 | 二七、五〇七 |
| 板橋區 | 二二、五六六 |
| 王子區 | 二六、六七三 |
| 荒川區 | 一〇、五五三 |
| 瀧野川區 | 一〇、七四六 |
| 豊島區 | 三三、七二〇 |
| 杉並區 | 一三、二二二 |
| 中野區 | 一五、〇四五 |
| 豊橋區 | 一〇、五五三 |
| 澁谷區 | 一五、三三六 |
| 日本橋區 | 二〇、七六五 |
| 芝區 | 一五、八八八 |
| 麻布區 | 一五、八八八 |
| 赤坂區 | 一五、八八八 |
| 四谷區 | 一五、八八八 |
| 牛込區 | 一五、八八八 |
| 小石川區 | 一五、八八八 |
| 本郷區 | 一五、八八八 |
| 下谷區 | 一五、八八八 |
| 淺草區 | 一五、八八八 |
| 深川區 | 一五、八八八 |
| 本所區 | 一五、八八八 |
| 計 | 一五、八八八 |

の發展をはかつてゐます。

戸數は皆で二万四千六百十で人數は十二万九千七百余人(男、七万五千九百九十九人 女、五万三千七百八人) あつて東京市の人數四百九十七万八千三百一十一人と比べて三十八分の一にあたり三十五區の中では二十一番目にあります。(昭和五年國勢調査)

地 勢

東京市は武藏野臺地といふ丘陵と多摩川荒川などの川によつて作られた沿岸平野の低い土地から出來てゐますその武藏臺地が低地に丁度掌をひろげた様にしてのぞんでゐます。この數個の臺地の中の一である本郷湯島臺の端がわれらの神田の北にあります。

これは皆さんの知つてゐる神田明神様やニコライ堂のあるところであります。ですからこの明神様やニコライ堂のあたりへ行くにはいろ／＼の坂があります。そのうち小川町から聖橋の方に行くには紅梅坂(光威寺坂又は埃坂)があり駿河臺下から御茶水の方へ行く途中に富士見坂がありま

町名

三崎町一丁目、同二丁目
 西神田町一丁目、同二丁目
 神保町一丁目、同二丁目
 同三丁目
 一橋町一丁目、同二丁目
 駿河臺町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目
 猿樂町一丁目、同二丁目
 小川町一丁目、同二丁目、同三丁目
 錦町一丁目、同二丁目、同三丁目
 淡路町一丁目、同二丁目
 英士代町一丁目、同二丁目
 鎌倉町、永富町
 司町一丁目、同二丁目
 旭町、銀治町一丁目、同二丁目、同三丁目
 多町一丁目、同二丁目
 須田町一丁目、同二丁目
 福田町一丁目、同二丁目
 紺尾町、富山町、松下町
 松枝町、岩本町、岩井町

す。また。藏前橋通りから明神様に行くに明神坂松住町から御茶水に行く道には昌平坂があります。

其他鍋島坂などがあります。

またこの高い臺地を二つに區切つて神田川が流れてゐます。このために神田川の北をば外神田南をば内神田いつてゐます。

此神田川といふのは、もと井頭公園内の井頭池を源として舊神田上水に利用したものであつて、杉並區中野區淀橋區をすぎて小石川區關口臺町の下で江戸川となります。關口臺町と神田區水道橋御茶水の間は谷地（斷層谷）を深く流れてゐて沿岸には急な崖がいたるところに聳えてゐます。ですから昔はこゝを支那の名高い赤壁といふ地になぞらへて、文人などが舟を流れに浮べて遊んだところでありました。

神田川はそれから隅田川に流れ込んでゐます。これによつて淺草區本郷區など、境をしてゐます。小石川橋からは此神田川は新川と堀留川につききそして江戸城の外堀についでゐます。

最高 二十八米

駿河臺鈴木町

坂

橋本町一丁目、同二丁目
 同三丁目、久右工門町、
 江川町、豊島町、富松町
 元久右工門町一丁目、同
 二丁目、八石川町、組島
 町、佐久間町一丁目、同
 二丁目、同三丁目、同四
 丁目、佐久間河岸、和泉
 町、花園町、花房町、相
 生町、花田町、仲町一丁
 目、同二丁目、同三丁目
 松住町、旅籠町一丁目、
 同二丁目、松永町、松富
 町、岸町、田代町、未廣
 町、金澤町、宮本町、龜
 住町、榮町、元佐久間
 町、五軒町、平川町、

此外堀などで西南に麴町區と境をしました外堀の常盤橋からは龍閑川（神田堀）と連つてゐて龍閑川は濱町川と連つて此の二つの川で南日本橋との境が出来てゐます。

此神田川が流れてゐる兩岸にある先の駿河臺湯島臺は赤土（ローム）といはれる土が三米から十二米まで覆つてゐます、この赤土は火山灰が風に送られて来て積つたものであります。

だから乾くと飛び易く雨にあへばぬかるみになり易いのであります。

震災以前東京は世界一の悪道路といはれたのもこれがためであります。

この赤土の下には砂利の入つた砂が積つてゐます。これは川の流れが運んだものであります。

この外神田區の平地は泥土と細砂からなつてゐて普通水分を多くさん含んで軟いのであります。ためにあの大地震にはこの平地が最も害が多かつた理由なのであります。

然しこの平地であるところは東京での屈指の商業地でありまして駿河臺や湯島臺は住宅、病院、學校などのあるところであります。

商業といつても神田は古本屋と洋服店と青物米などが中でも最も盛んなものであります。

古本屋は駿河臺下から神保町、九段坂近くまでの表通の兩側に並んでゐて日本一の古本屋をなしてゐます。近頃は此の裏通りや水道橋までの三崎町通りにも古本屋がたくさん新しく出来て來ました。また古本ばかりでなく新しい本を出版する書店は多く神田にあつて日本一の出版の盛んなところといつてよいでせう。

三省堂、大同館、同文館、富山房、寶成館、光風館、明治書院、帝國書院、岩波書店、アルス社などが其の中で重なるものであります。

東京の柳原といふ名は日本の人々にまで知られてゐる古着屋町であります。

したが震災後は洋服町となつて洋服を下げた家が見事に立並んでゐます。其上今では日本唯一の壯大な四階建コンクリートの東京衣類市場が和泉橋近く岩本町の角に聳えてゐます。

此柳原洋服町には一日二千人以上の客が來て其賣上高も六千圓以上になるといふ事でありませう。

また神田の青物市場は東京で名高いものとして江東市場(本所區横網町)とならんでゐます。この市場は秋葉原驛前にあつて五百萬圓を費したといふ二千坪の鐵筋コンクリートの大きな建築が並んで日本一位でなく東洋一の青物市場であつて一年に千七百四十五萬圓十七萬噸の青物や果物を取扱つてゐます。

此青物などを調べて見ると仲々面白いことが多くあります。其一二をあげますと、

西瓜は臺灣のものが最も早く六月頃から出はじめ小笠原、鹿兒島、房州熊本、七月からは奈良、愛知で富山の西瓜はおそい方で八月九月となつて

みます。

胡瓜も同じく高知縣の胡瓜は早いもので六月頃から出はじめ静岡縣の方はいろ／＼工夫して栽培するので同じく六月頃に盛んに出ます七月には東京附近の千葉、埼玉、神奈川の縣のもので出てこれは最もおそいものであります。

殊に南瓜でありますが高知縣は最も早くて五月頃から入つて來ます。宮崎縣のものでこれについて五月末から出て來ますそれについては鹿兒島は六月始めて月末には東京近い千葉、埼玉縣となりますがもつとおそく來るものは岩手縣のもので八月から九月であります。

これらを見ても氣候と農産物の關係がよくわかります。同時に人々はいろ／＼工夫して早く物を作つて市場に出さうと心掛けてゐることもわかります。それですから此の様に神田の青物市場に集る青物を調べて見るといろ／＼面白いことがたくさんあります。

神田青物市場取扱品調査（昭和六年）

（蔬菜）

| 品目 | 數量 | 金高 | 主產地 |
|-----|--------|-------|--|
| 西瓜 | 七百七十萬疋 | 五十八萬圓 | 東京、千葉、茨城、静岡、愛知、富山、奈良、和歌山、兵庫、鳥取、高知、熊本、鹿兒島、臺灣、 |
| 胡瓜 | 二百八十萬疋 | 四十七萬圓 | 東京、千葉、埼玉、神奈川、茨城、静岡、高知、愛知、 |
| 大根 | 千四百萬疋 | 三十八萬圓 | 東京、千葉、神奈川、埼玉 |
| 玉葱 | 九百七十萬疋 | 三十六萬圓 | 東京、神奈川、静岡、大阪、和歌山、北海道、 |
| 馬鈴薯 | 九百五十萬疋 | 三十六萬圓 | 東京、埼玉、千葉、神奈川、茨城、群馬、長野、福島、岩手、青森、北海道、 |
| 松茸 | 二十九萬疋 | 三十一萬圓 | 静岡、長野、滋賀、三重、京都、兵庫、岡山、山口、 |

| | | | |
|----|--------------|----------|--|
| 山葵 | 二十四萬疋 | 三十一萬圓 | 岩手、山形、 静岡、東京、神奈川、山梨 長野、 |
| 里芋 | 五百三十七萬疋 | 二十七萬圓 | 東京、千葉、埼玉、静岡、 神奈川、栃木、和歌山、 |
| 莓 | 八十六萬疋 | 二十七萬圓 | 東京、千葉、神奈川、静岡 |
| 甘藷 | 五百二十八萬疋 | 二十五萬圓 | 東京、千葉、埼玉、神奈川 静岡、高知、 |
| 甘藍 | 七百三十六萬疋 | 二十四萬圓 | 東京、埼玉、静岡、長野、 岩手、大阪、沖繩、臺灣、 |
| 白菜 | 五百五十七萬疋 | 二十一萬圓 | 東京、埼玉、茨城、栃木、 群馬、静岡、福島、宮城、 岩手、山形、 |
| 茄子 | 三百四十二萬疋 | 二十萬圓 | 東京、千葉、埼玉、神奈川 静岡、愛知、高知、 |
| 其他 | | | |
| 計 | 一億百六十三萬五千五百疋 | 六百八十七萬餘圓 | |

| | | | |
|----------|-------------------|----------------|--|
| 密柑 | 千五百六十萬疋 | 二百八十四萬圓 | (果實) 静岡、和歌山、神奈川、大 分、大阪、廣島、愛媛、山 口、鹿兒島、 |
| 苹果 | 千三百四十五萬疋 | 二百萬圓 | 青森、長野、福島、北海道 朝鮮、 |
| バナ、 梨 | 八百七十六萬疋 六百二十萬疋 | 百四十萬圓 六十九萬圓 | 臺灣、 東京、神奈川、千葉、福島 静岡、新潟、奈良、鳥取、 岡山、 |
| 葡萄 | 二百九十萬疋 | 五十四萬圓 | 山梨、大阪、長野、岡山、 和歌山、 |
| 柿 | 三百五十萬疋 | 四十七萬圓 | 東京、千葉、埼玉、神奈川 静岡、岐阜、福島、山梨、 鳥取、岡山、 |
| 桃 | 三百九十萬疋 | 四十一萬圓 | 東京、神奈川、千葉、静岡 岡山、 |

| | | | |
|--------|-------------|----------|-----------------------|
| 批把 | 九十三萬疋 | 四十萬圓 | 千葉、長崎、兵庫、鹿兒島 |
| 夏橙 | 四百六十二萬疋 | 三十四萬圓 | 静岡、廣島、愛媛、山口、和歌山、 |
| ネーブル | 九百二十五萬疋 | 二十七萬圓 | 静岡、和歌山、廣島、愛媛山口、 |
| 栗 | 百十五萬疋 | 二十二萬圓 | 東京、神奈川、茨城、岩手高知、愛媛、朝鮮、 |
| 其他 | | | |
| 計 | 六千三百七十萬疋 | 千十萬圓 | |
| (加工高等) | | | |
| 罐詰 | 二十一萬疋 | 十五萬圓 | |
| 澤庵 | 百九十萬疋 | 十五萬圓 | 東京、 |
| 干柿 | 十一萬疋 | 三萬圓 | |
| 其他 | | | |
| 總計 | 一億六千八百六十五萬疋 | 千七百四十五萬圓 | |

| | | |
|---------------------|---------|-------|
| 米の産地と其扱高 (昭和五年四斗入依) | 和五年四斗入依 | 二十一万依 |
| 庄内米 | 十五萬依 | |
| 新高米 | 十四萬依 | |
| 本石米 | 十一萬依 | |
| 岩手米 | 八萬依 | |
| 栃木米 | 五萬依 | |
| 朝鮮米 | 四萬依 | |
| 岩代米 | 四萬依 | |
| 秋田米 | 四萬依 | |
| 貨物の種類別 (昭和五年) | | |
| (到着) | | |
| 1 米 | 十八萬疋 | |
| 2 果物 | 四萬疋 | |
| 3 生馬鈴薯 | 十萬疋 | |
| 4 生野菜 | 三十萬疋 | |
| 5 清麥酒 | 十二萬疋 | |
| 6 和洋紙 | 三萬疋 | |
| 7 木炭 | 六萬疋 | |
| 8 砂利 | 二萬疋 | |
| (發送) | | |
| 1 砂糖 | 七萬疋 | |
| 2 綿織物 | 一萬疋 | |
| 3 鐵及銅 | 三萬疋 | |
| 4 銅及銅製品 | 二萬疋 | |

神田にある今一つの市場は米の市場であります。昔徳川時代から神田川筋は米の取引が行はれておりましたが、今日でも同じ様に舊東京市の人々が食べる約四百萬石のお米の大半は神田川米穀市場と正米取引市場で取引されておます。(上欄参照)

これらのお米や青物などの貨物を取扱ふのは秋葉原驛で、このために秋葉原驛は日本の貨物驛として有名なもので土地の廣大なこと、設備の立派なことは他に見られないものであります。ですからこの驛は一年の取扱ふ貨物は發送貨物三十六萬疋で、到着貨物は五十一二萬疋貨物の収入は三百三十三萬圓(昭和五年)にもなるといひます。

また神田區が東京市で第一に數へられる商業地であるといふのは、區内一萬三千八百六十戸の中九千百三十四戸が商業をなす家であつて、全體の戸數の六割七分に當るのを見て知られませう。

昭和二年總貨物 一六五萬噸

| | |
|-----------|-------|
| 隅田川 | 二〇一 |
| 沙留川 | 一七〇 |
| 秋葉原 | 一一二 |
| 飯田町 | 九一 |
| 新宿 | 六一 |
| 大崎 | 五一 |
| 錦糸町 | 五一 |
| 惠比壽 | 四四 |
| 品川 | 四四 |
| 澁谷 | 四三 |
| 大正十四年十月一日 | |
| 國勢調査 | |
| 商業 | 九、一三四 |
| 工業 | 四、五五三 |
| 公務自出業 | 四六七 |
| 其他 | 一二 |
| 主なる工場調査 | |
| 工場数 | 三 |
| 職工数 | 二七〇人 |
| 染織工場 | 三 |
| 機械工場 | 三 |
| 化学工場 | 九 |
| 飲食物工場 | 二九 |
| 雑工場 | 一六 |
| 其他 | 二四二人 |

工業

商業とならんでわれらの神田區は工業も盛んであつて十萬圓以上の資本金の工業會社は百八十七社もあります。(總資本金九千三百七十七萬一千圓)です。ですから工場としては本所區芝區深川區に次いで東京では第四位となつて三百三工場(職工數七位三千五百六十五名)の多數であつて従つて工産物も多額に上ります。

中でも印刷製本工場の數や職工數の多いのは出版業の盛んなことを表してゐます。

交通

東京のほゞ中央であり商工業の盛んな神田區も震災前は世界一の悪道路であつたのです。そして雨の日のぬかるみは『道路に田植が出来る』とあざけられたのですが今日は如何でせう。

荒川區三輪から品川區へ通ずる東京第一の昭和通りは幅四十四米の立派なもので、人道車道は勿論、車道をまた二つに分けて内側は自動車のみ

路となつてゐる上に中央には芝生を植え遊歩道路までもあるといふ立派さであります。この昭和道は神田區を北下谷區から通じて南日本橋へいつてゐます。

これと反對に淀橋から城東區へと神田區を東西に横ぎる大正道は幅三十五米もあつて昭和通りに次いでの大通りであります。

大正道に次ぐものは日本橋區から神田區今川橋をすぎて須田町萬世橋を渡り下谷區上野廣小路に行くもので、幅は三十二・五米のもので此のほか日本橋大手町から神田橋小川町聖橋を経て本郷區にいたるのは、幅三十四米・一つ橋から神保町水道橋をすぎて豊島區に至る道、本所區倉前橋を渡り淺草區、下谷區を横ぎり神田區の北端を東西に横切る藏前通りの道路は共に二十七米の大通りであります。又雉子橋、神保町西神田町二丁目三崎町二丁目をすぎ後樂橋を渡り本郷區に至るもの、雉子橋から神田橋鎌倉河町岩井橋をすぎ江川町に至る通は共に二十四・六米もあるもので、殆ど道路は小路を除いてコンクリートやアスファルトの立派な道路であります。また道

路と共に交通の便を助けてゐる、橋の中心は神田川にかけられた左衛門橋、美倉橋、和泉橋、萬世橋、昌平橋、聖橋、御茶水橋、水道橋、後樂橋、小石川橋などがあります。新川には新川橋堀留川には堀留橋がかけられ、外堀に俎橋、雉子橋、一つ橋、錦橋、神田橋、鎌倉橋、常盤橋があります。龍閑川に今川、東中ノ橋、地藏、火除九道、橋本橋などがあり、濱町川に大和、岩井、竹森橋などのいろ／＼の橋があります。

其上省線電車の高架線は上野驛御徒歩町驛から来て區を南北に走り秋葉原驛神田驛を通じて東京驛へと赴きます。

これに神田驛からは同じ省線が萬世橋驛御茶水驛を通じて遠く新宿驛へと走つて行きます。

この様に便利な上に、七月からは御茶水驛から分れて省線は秋葉原驛で世界でも数少い三重の高架線が交叉して東京の名物となり、遠く兩國、千葉方面へ行く人々は非常な便利となりました。

此の様に省線はよく發達してゐるので東京でも大そう便利なところとなり

ました。

ですから省線の秋葉原驛、萬世橋、御茶水驛、神田驛、水道驛の五驛はわが神田區の大切な門となつてゐます。

(昭和五年)

水道橋驛

神田驛

御茶水驛

秋葉原驛

萬世橋驛

乗客數

六百八十三萬人

三千二百六十七萬人

八百萬人

二百七十三萬人

二百九十萬人

降車數

六百六十八萬人

二千五百五十萬人

七百八十二萬人

二百六十六萬人

二百六十萬人

計

千三百五十一萬人

四千四百十七萬人

千五百八十二萬人

五百三十九萬人

五百五十萬人

收 入

五十九萬圓

二百六十五萬圓

四十一萬圓

二十九萬圓

三十二萬圓

中でも水道驛は學生の客だけといつてもよい位であります。これは西神田の方にある學校へ通ふ學生のためです。御茶水驛も學生が多いが今一つ毎日千人以上の病院通ひの客のあることですが、これは駿河臺一帶に病院が多いためであります。

これと違つて神田驛は勤人が主であつて中でも穀町兜町へ行く商店員と日本橋京橋方面へ行く會社員であります。

此の外市營電車が昭和通、大正通、昌平通りを通じてゐます。この電車の

昭和四年六月十三日調

| | |
|------|--------|
| 神保町 | 二七、五四八 |
| 須田町 | 一四、〇四五 |
| 小川町 | 三三、〇八九 |
| 神田橋 | 三三、九二九 |
| 駿河臺下 | 三三、六三三 |
| 和泉橋 | 二〇、〇〇五 |
| 萬世橋 | 七、五八九 |
| 御茶水 | 五、五八一 |
| 錦町河岸 | 五、四九一 |
| 松住町 | 四、二一九 |
| 旅籠町 | 三、六七五 |
| 萬世橋 | 三、五四八 |
| 三崎町 | 三、四六一 |
| 美士代町 | 二、〇九九 |
| 一ツ橋 | 一、九七五 |
| 登島町 | 一、六七四 |
| 元岩井町 | 一、三三〇 |
| 申賀町 | 一、三〇七 |
| 鎌倉河岸 | 二七六 |
| 計 | 三三、三三七 |

神田区内の停留場は十九箇所あつて、一日に此十九の停留場の乗降客は十三萬千二百四十七人の多數であります。市内電車を助けて交通を便利にしてゐるものは市營バス青バスです。また最近出來た地下鐵道は淺草から神田驛まで四・四軒更に三越に延びて五・一軒となりました。

諸車歩行者交通量 昭和六年一月現在(自午后五時至六時)

| | 自動車 | 自轉車 | 其他車 | 歩行者 |
|-----------|-------|-------|-----|-----|
| 須田町(南北) | 四六四 | 三五六 | 四 | 五一五 |
| 大正通(須田町) | 四四八 | 五六〇 | 二四 | 四四八 |
| 神田橋通(小川町) | 五七二 | 四七〇 | 三二 | 二八七 |
| 昭和通(南北) | 五五四 | 七八四 | 二八 | 一二五 |
| 北神保町 | 一、二八七 | 二、八〇七 | 二八二 | |
| 交叉點 | | | | |
| 昌平橋 | 二六八 | 一、〇一一 | 六四 | |

官公署、學校

| | | | | |
|-----|-------|-------|-------|-------|
| 官 衙 | 警 察 署 | 消 防 署 | 郵 便 局 | 電 話 局 |
|-----|-------|-------|-------|-------|

我國一の都である東京のほゞ中央にわれらの神田區がありますから。役所もありませんが殊に學校はたくさん集つてゐます。東京衛生試験所は和泉町にあつて藥品や其他いろ／＼の化學品等の試験研究をしてゐます。また神田區役所は明治十一年からいろ／＼變遷もありませんでしたが只今は錦町二丁目にあつてわれら區民のためにつくして下さいます。警察署は神田錦町警察署(錦町)神田西神田警察署(西神田町)神田萬世橋警察署(佐久間河岸)の三つもあつて我等を守つてくれます。其ほか神田消防署(淡路町)神田消防署駿河臺出張所(小川町)があつて火事にそなへてゐます。郵便局には神田郵便局(淡路町)小川町郵便局(小川町)のほか十八の小さな郵便局が町々にあつて大そう便利であります。そのほか電話局神田分局(司町)があつて加入者(六、八五九人)のため

にいろ／＼取はからつてくれます。

其のほか救世軍社會部、(一橋町) 三崎會館、(三崎町) 東京保護會、(須田町) 泉橋慈善病院、(和泉町) 白十字會、(錦町) 東京中央職業紹介所(鎌倉町) などの社會事業をなすところもあります。

東京の學校町は本郷區とわれらの神田區であります。それは大學に明治大學、(駿河臺町一丁目) 日本大學、(三崎町一丁目) 中央大學、(駿河台三丁目) 専修大學、(神保町三丁目) があり、専門學校としては東京齒科専門學校(三崎町一丁目) があるのでわかります。

中等學校は數多くあつて中學校、(五校) 商業學校、(六校) 女學校、(二校) 工業學校等、皆て七十四校もあるため學生生徒の數も七萬七千餘人、神田區の人口十二萬九千餘に比べて六割二分にあたるたくさんの人であります。

其上小學校には錦華、淡路、神田、千櫻、練成、橋本、小川、和泉、佐久間、西神田、今川、神龍、芳林の十三校の尋常小學校と、一橋の高等小學校とあつて生徒の數は一萬五千五百三十四人(男七千九百十八人、女七千六百二十人、昭和六年)の

多數であります。

其の他に尋常夜學校は二校(西神田、千櫻)と、商工専修學校五校(神田、佐久間、錦華、橋本、練成)と、市立第五實業學校、(和泉) 神田實科女學校、(一橋) 今川専修學校(今川) があります。

また幼稚園は市立のものが六校と、私立のもの四校あつて幼い子供たちを教へてゐます。

又一般の人々のために圖書館といふものがあつて、こゝで自分の好きな本を借りて勉強出来る様になつてゐます。それには駿河台圖書館、(駿河臺町一丁目) 外神田圖書館(金澤町) などがあります。

われらの神田にも、人々の身體を休ませたり、身體を強くするために公園がたくさん大震災後出来ました。それには西小川、錦華、淡路、神田、練成、宮本、神田橋、芳林の八公園であります。これらの公園へ行つてごらんささいいろ／＼の人たちか楽しさうに遊んでゐます。

この神田區にはまた病院は他の區に見ないほど多くて二十七もありま

す。そしてこれらの病院は駿河台に多いので、病院へ通ふ人は御茶水驛の乗降客の一割をしめて居るといはれてゐます。この病院の中で和泉町にある泉橋病院は三井家といふお金持のお金で出来てゐる慈善病院であります。これがために畏くも 皇后陛下の行啓さへあつたところがございます。

神 社

昔江戸の花は火事と祭といひました。その花の一つである祭に有名なものは神田祭に山王祭であります。この中神田祭は江戸子の中での神田つ子の意氣をあらはしたといはれ、江戸はこの祭の見物には市中あげて集つたものであります。ですから昔は小田原の北條氏から徳川時代に至るまで社殿の造營、祭の費用は江戸町中に割あてたものであります。

この神田祭の社は神田神社、(府社)で大己貴命少彦名命のお二方を祀り、昔は武州の總社であり、江戸の鎮守であるとして、皇室や武家町民にうやまはれたもので、靈元天皇(紀元二三三三)から勅額をいたゞき、また近くは明治元年には明治天皇の御参拜もあつた社であります。

神田神社

神 社

三崎神社

神田神社について有名なのは三崎稻荷神社(村社三崎町)で宇迦迺御魂大神、素戔嗚大神、大市姫大神などをお祀りしてあります。この社は建久年間(紀元一八五〇)のものといへますが明ではありません。然し天文年間(紀元二一九二—二二二四)北條氏が千代田城に住つて此の神社を敬ひ社殿を再建したことや、萬治二年、(紀元二三一九)伊達綱宗が千代田城外の外濠工事が仲々出来ないので、此の社に祈つたところ、たちまちに出来たので大いに喜んで綱宗が正宗の短刀一口寄附したこともあるといひますから古い社であるといはれます。

深夜歸雁といふ事を神田の社にておの／＼よみ侍る時。

なきつれて聲より聲とますらをの心に歸る夜半のかりがね。

太田道灌

太田神社

太田姫稻荷神社(村社駿河台町)は宇迦之御魂神、大市比賣神のお二方を祀つたあつて、昔小野篁が隱岐國へ移された時、海難、痘瘡の病を太田比賣命に救はれた其像を刻んで山城國に祀りました。長祿年間、(紀元二二七—二二七五)太田資長の娘が痘瘡にかゝつた時、此神を祈つてなほつたので城の外

に社を建て、山城國から迎へて長く太田稻荷と申したといふ有名な社であります。

柳森神社

また江戸城鎮護の社として幕府から敬せられてゐた柳森神社（村社柳原河岸）は、宇迦美多摩之命外三方を祀つた社で、長祿二年（紀元二二三〇）太田道灌が江戸城に居たとき、北隅の鬼門除のため十餘町に柳數株を植ゑ社を森林中に祀つたので柳森といふ名がついたのであります。

われらの神田には此の外に十社の神社があつてそれ〴〵區民を守つて下さいます。

寺院

神社と並んで寺院であります。徳川氏の始めは江戸中で寺院の集つてゐたところでありましたが、淺草や其他に移してからは今日は一つの有名な寺院もありません。然し駿河台に高く聳えてゐるキリスト教のニコライ堂があります。

沿革

神田の名の起りは先にいつた様なものですが、小田原役帳太田新六郎の知行中に「江戸神田の内、新堀方六貫五百八十文を領す」と記してあるを以

沿革

て神田の名があつたことは明であります。また天正日記といふ本の十八年（紀元二三五〇）九月六日ところに「ひき寺のしらべ神田のだい谷原まちのかた（十六ヶ寺を引わけて寺やしき地わり）とあり、十一月六日のところ「神田台下、土とりあと道にならず、谷原町の通りぬける様にと申付けにかねて谷原のものゝ願につきて也」とあるので、神田台今の駿河台の東於玉ヶ池附近に天正頃谷原町のあつたのが明であります。

それには淺草寺の古石像の如意輪觀音の銘に、願主神田、谷原町泉屋久兵衛とあるので見てもわかります。

徳川時代になつて神田台谷原町附近局澤貝塚あたりの寺院の大部分を移して、小石川の流れを正しくし、同時に神田台をけづつて今の小川町附近をうづめて旗本の屋敷としました。

更に慶長八年（紀元二二六三）神田台を大いに削つて、東南にあつた洲を埋め神田川を正して東に注ぎました。此時今の飯田町附近（今麴町區）をひらめ猿樂町などと共に旗本の屋敷とし、更に後に神田川の流れを正し、東南

部は商家を住ませて今の内神田が出来たのであります。

外神田は、もと豊島郡狹田の一部で、初め下谷鳥越の二村であつたが、徳川氏になつて、初めは神田川附近に多く寺院や諸侯の屋敷を開いたが、明暦三年（紀元二二一九）の大火から寺は他に移して諸侯のみの屋敷となり、旗本の屋敷と變り、今日の學生町にと移つたものであります。

町名

われらの神田にある町の名を調べて見るといろ／＼面白いことがたくさんあります。

昔武士の邸があつたので町名となつたのには舊今川小路、（今川氏）舊小出河岸、（小出氏）舊南神保町、（神保氏）錦町、（一色氏二家があつて此處にすむために二色町といひそれが變つたもの）舊鈴木町、（鈴木氏）舊皆川町、（皆川山城守）舊關口町、（關口彌太郎）旭町、（秋田藩佐竹氏がすみ佐竹氏の家紋は扇に日の丸であつたから）江川町、（江川太郎左衛門）舊金澤町、（金澤藩前田氏）舊五軒町、（上田藩松平氏、勝山藩酒井氏、林田藩建部氏

黒羽藩大開氏、久留米藩黒田氏の五邸があつた）和泉町、（藤堂和泉守）などはこれであります。

また其處に住む人の職業から町名となつたものが少くありません。猿樂町、（猿樂師觀世大夫）舊甲賀町、（甲賀組の者）舊堅大工町、（大工の國役銀を擔辨した）舊連雀町（買物を入れて負ふ連雀をつくる）舊塗師町、（漆工多くすむ）舊上白壁町、（泥匠棟梁安間源大夫すむ）舊南乗物町、（駕籠乗物職人すむ）舊紺屋町、（染物屋すむ）舊材木町、（材木商住む）舊籠旅町、（旅宿が多くあつた）舊台所町、（幕府の賄方屋敷があつた）舊餌鳥町、（餌鳥飼場及び馬場があつた）鍋町、（鑄物師のすむ）鍛冶町、（鍛冶がすむ）などあります。

住む人の名から出来た町名に佐久間町、（佐久間平八といふ人が住む）舊東籠閑町、（幕府の坊主井上籠閑すむ）松枝町、（幕府の女官松枝がすむ）佐柄木町、（佐柄木氏すむ）があります。

其のほか、そこにあつた地名や建物などによつて名の出来たものには

小川町、(神田ヶ淵又は小川の清水とよんでゐた。太田道灌の歌に、

武藏野の小川の清水絶えもせず岸の根笹を洗ひけるかな とあります。

舊東紅梅町、(紅梅坂からおこつた) 淡路町、(淡路坂があつた) 美土代町一丁目、(御田代とよんで神田は皇太神宮に新稻を奉る料地で神領であつたところから神田となり御土代をとつて名とした) 舊雉子町、(雉子橋門であつた) 舊千代田町、(昔千代田村であつた) 多町、(元田圃であつたのを埋立てたので出来た) 美倉町、(佐柄木町藏地、本銀町會所屋敷 藏地、紺屋町二丁目、藏地) の三つの藏地であつた西福田町、(福田村であつた) 豊島町、(豊島村) また住む人の出身地から町名となつたものは舊三河町二丁目、(三河國の人が住む) 八名川町、(參河國の八名川村から来て住んでゐた) であります。このほか調べるとまだいろいろなことがあります。

名所 史蹟

神田上水 江戸の飲料水は神田上水、玉川上水、千川上水の三つでありました。神田上水の源は吉祥寺の井の頭辨財天の池から發し、關口水道を通り

名所 史蹟
神田上水

水戸侯の邸を通つてお茶の水大樋を通じ、内神田に入り神田の飲料水となつてゐました。

江戸も繁昌になつたので、徳川二代將軍秀忠公自ら多摩郡に沼水の出るのを見出し、神田の塗師町幕府の御用菓子司、大久保藤五郎忠行に工事を命じました。藤五郎はいろいろ苦心して東へ十キロ餘り、關口村に堰を築いて水を蓄へ、また水を落して小石川に導きました。それから地下に暗溝を作つて神田川を越え、小石川で二つに分れ一つは東神田から柳原、一つは神田橋にいつて江戸城内の百邸に入り、龍閑橋、常盤橋から京橋に至つてゐました。此間に二つに分れて、一つは銀座馬喰町から淺草に入り、一つは本石町に入り、堀留に行き、小船小網町を過ぎて箱崎にて大川に入つてゐました。此上水の功によつて將軍は望みの賞を藤五郎にたづねられると別にないとの事で主水の名を賜つた。舊塗師町を主水河岸と呼んでゐたのは大久保主水の邸があつたからであります。

主水の井

主水の井 大久保主水の邸に「主水の井」といふ有名な井があつた。主

人は神田上水をつくつた江戸の元祖であります。

御茶水 徳川幕府の頃神田に澤山の水があつた。水の中でも名水といはれるのは衡にかけて軽いのをいつたのである。其の名水の中でも最も有名な御茶水であります。

御茶水は聖堂の西にあつて、將軍の御茶の水になつたので名がついたといはれてゐます。いろ／＼調べると今の女子高等師範學校の西の邊かと思はれます。又良水は昌平橋外の俗にいふ加賀原に、「加賀の井」といふのがありました。これはまた本願寺の井ともいつてゐます。それは慶長年間、(紀元二二五六—二二七四)今の旅籠町三丁目邊に東本願寺があつたからであります。其他舊堅大工町幕府の書物役所の址に「姥ヶ井」といふのや佐柄木町に「龜の井」がありました皆名水であつたといはれてゐます。

お玉ヶ池 松枝町を中心として一帯を「お玉ヶ池」といつてゐますが昔は今しのほの不忍池よりもつと大きい池であつたといひます。もとは櫻ヶ池といつてこの池の近くの櫻の木の下に茶屋があり、お玉といふ美人が居まして往

來の人にお茶をすゝめてゐました。このお玉は二人の男に思はれてつひに池に身をなけて死んだといはれてゐます。人々はこのれをお玉いんぎ稻荷に祀り、参詣人が多かつたが明暦の大火でなくなり池も埋まつてしまひました。お玉ヶ池の名はこれから出たものであります。

柳原 昔須田町の堀端から淺草橋まで神田川の南岸に土堤があつて柳が植えてありました。このわけは江戸本丸から鬼門にあつたので鬼門除けのため植ゑたのだといはれてゐます。また吉宗將軍が命じて植ゑたのともいひます。この柳原堤の一部で、筋違御門と柳森神社の間に清水山といふ小さい丘がありました。この丘の神田川に向つた洞穴から清水が湧き出てゐたといはれてゐます。また清水山は不思議の事が多くて近寄つたものは危難が來るといはれてゐました。此の柳原は其頃、露店、興業師が澤山出てにぎやかでありました。

うら／＼と枝打ち烟る柳原花に先だつ春の色かな 加藤 千・蔭

護持院ヶ原 神田にあつた原は護持院ヶ原、八辻ヶ原、加賀原、柳原、秋

葉原、講武所ヶ原、三崎原などがありました。中でも護持院ヶ原は有名で神田橋外から雉子橋外の間一帯をいひました。始めは武家地でありましたが元祿二年(紀元二三四九)柳原の智足院を此處に移して大きな堂を建て護持院と名づけました。享保二年(紀元二二七七)の大火に焼けたので寺は音羽の護國寺の境内に移し、火除地として護持院ヶ原といひました。原の中に三條の道が通つて一番ヶ原から四番ヶ原まで四區に分れ、幾百年もたつた老松が茂つてゐました。その内一番ヶ原を武家屋敷とし、他は享保年間眞中に堀をつくつて將軍の放鷹の場所としました。

丹前風呂 舊連雀町の通りに堀丹後守の邸がありました。此の邸の前今の雉子町の北に丹後殿前といつて(言葉をちゝめて)「丹前」「清水風呂」「梶か風呂」といふ錢湯風呂が出来ていきな姿の男達が出入したのであります。それから丹前風呂——丹前姿——丹前六法といふことが流行して丹前六法風を江戸つ兒の祖先といふ様になりました。六方といふのは男達、町奴、又白柄組の旗本が意氣揚々と勇んで歩いた有様から出たものであります。

雁淵 これは今の岩本町邊であらう、此邊は一面に沼で雁が下りたのでよんだのでせう。

神田ヶ淵 これは小川の清水ともいつて小川町、内藤大和守の邸にあつたので不忍の池のぬけたのなどいはれて居ました。

名人 名家

室鳩巢 大學者の室鳩巢は駿河台に住つて居ました。駿台雑話はこゝで著したものであります。

菊岡沾涼 江戸の名所を書いた「江戸砂子」を書いた人で、神田鍛冶町に住つてゐました。

木下順庵 大學者で晩年に舊台所町に住んでゐました。門人には新井白石、室鳩巢、祇園南海などがありまして、元祿十一年(紀元二二五八)七十八才でなくなりました。

屋代弘賢 舊末廣町十六番地に住んでゐた人で、歴史の學者として名高い人であります。

丹前風呂

雁淵

神田ヶ淵

名人 名家

室鳩巢

菊岡沾涼

木下順庵

屋代弘賢

大久保彦左衛門

上栗上野介

横谷宗興

平賀源内

西園寺公

大久保彦左衛門 名高い大久保彦左衛門も駿河台に住んでおりました。
小栗上野介 徳川氏の旗本で勘定奉行をつとめた人で、幕府の命でヨーロッパ諸國を巡つて来た人でありました。駿河台に日本人として始めての西洋風の家を建て、ゝゐたさうであります。

横谷宗興 名は盛次、通稱次兵衛といつて、徳川氏から彫刻の御用をいひつけられた人で神田に住んでおりました。

平賀源内 始めは神田舊白壁町、後に橋本町に移つて此處で死んだといはれてゐます。早くから西洋の學問がすぐれてゐるのを知つて、西洋の學問を志し長崎で西洋と貿易をしました。そしていろいろヨーロッパの機械を買ひ工風をこらして「エレキ」を發明しました。その他空中飛行機いろいろの本を書いてゐます。夏の土用の丑の日鰻を食べるといふ習慣は源内がはじめたものであるといはれてゐます。

西園寺邸 只今の日本の元老として、陛下の信任あつくいつも御相

廣瀬中佐

政治

談相手の西園寺公爵の邸は駿河台町一丁目にあります。

廣瀬中佐の銅像 軍神廣瀬として誰にも知られてゐる廣瀬中佐の銅像は須田町交叉點にありましたが、只今は萬世橋驛の前にその勇ましい姿をあらはしてゐます。

政治

明治十一年に始めて神田區が置かれまして區役所がもうけられたのであります。そして同年十一月二日小川町一番地、元小川女子小學校跡に仕事が始められました。

この區役所も明治十五年一月七日錦町一丁目一番地に移り、同廿一年十月廿二日錦町二丁目一番地に移りましたが、同廿五年十月四日火災にあひまして十一日から淡路町二丁目元小川女子小學校に移りました。

然し同じ月の廿七日舊柳原河岸十一號に移り、同廿七年十月十五日錦町二丁目ところに又移りましたところが大正十二年九月一日の關東大震災にあつた、め建物がなくなりましたので、一橋商科大學の燒跡に一時移り、

歴代區長

澤 簡 徳
 明治十一年二月二日
 同 三十一年九月一日
 桑田 房吉
 明治三十一年九月一日
 同 三十四年三月九日
 小原 八十吉
 明治三十四年三月九日
 大正三年四月二十二日
 山縣 鐵藏
 大正三年四月二十二日
 同 十四年七月三日
 柴原 國松
 大正十四年七月三日
 昭和四年三月四日
 白鳥 徳之助
 昭和四年三月四日
 同 七年七月一日
 澤 逸 興
 昭和七年七月一日

次に神田橋のたもとにバラック建を作りました。然し不便ですから昭和二年八月十七日から錦町二丁目に新築にとりかゝり、四年二月九日に今日の建物が立流に出来上りました。そして毎日われら區民のためにいろ／＼取りはからつて下さいます。此新區役所は費用廿二萬七千圓でコンクリートの四階建て神田區の一つの見物であります。

- 此 區役所には 庶務課 (庶務係 教育係 選舉係)
- 戸籍課 (本籍係 寄留係 兵事係)
- 衛生課 (衛生係 道路係)
- 稅務課 (國稅係 家屋係 營業係 雜種稅係 滯納整理係)
- 會計課 (收納係 支拂係 用度係)

五課があつていろ／＼區の事務をとつてゐます
 また區會といふものがあつて、神田區から選舉されて三十九名の區會議員によつて區のいろ／＼の事が定められてゐます。

其上各町毎に町會といふものがもうけられて、町民のべんぎをはかつてゐます。又十名の學務委員がこの神田區にあつて、學校の事をいろ／＼きめて下さいます。

なほ神田區から選ばれてゐられる、府會議員は八名、市會議員は五名、市學務委員三名、東京商工會議員二名もあつて、それ／＼府や市などのためにつくして下さいます。この他神田區に住んでゐられる衆議員議員五名、貴族院議員四名もあります。この方々は國のためにつくして下さいます方々であります。

終

この本をつくつてから次の様に變更がありました。

- 日本橋區 龜井町 (二十六番地から三十一番地) は神田區になりました。
- 淺草區向柳原町一丁目 (五十八番地から六十八番地) は神田區になりました。
- (八十五番地から八十九番地) は神田區になりました。
- 百一 番地から百二 番地
- 神田區 餌鳥町 (一番地から二番地) は淺草區になりました。

昭和七年十二月十九日 印刷
昭和七年十二月廿三日 發行

〔非賣品〕

編輯者 市立橋本尋常小學校研究部

右代表者 刀川彦次郎
笹原盛信

印刷者 東京市芝區今入町七番地 庭野民一

印刷所 東京市芝區今入町七番地 厚明舎印刷所

電話銀座(57)三六二八番

正誤表

| 頁 | 行 | 正 | 誤 |
|----|----|---------|---------|
| 一一 | 上欄 | 極南鐵倉町 | 極南鍛冶町 |
| 一一 | 上欄 | 皇太神宮 | 皇太皇宮 |
| 一一 | 上欄 | 城東區 | 龜戶區 |
| 一一 | 上欄 | 向島區 | 隅田區 |
| 一一 | 上欄 | 廣いところで | 廣いところ |
| 一二 | 上欄 | 加工品等 | 板ヲ削ル |
| 一二 | 上欄 | 公務自由業 | 加工高等 |
| 一二 | 上欄 | 主なる工場調査 | 公務自由業 |
| 一五 | 上欄 | 飲食物工場 | 主なる工場調査 |
| 一五 | 上欄 | 三十四米 | 飲食物工場 |
| 一七 | 上欄 | 水道橋驛 | 三十四米 |
| 一八 | 上欄 | 甲賀町 | 水道驛 |
| 一九 | 上欄 | つかさ | 申賀町 |
| 一九 | 上欄 | 出來てゐる | つかさ |
| 二二 | 上欄 | 鑄物師 | 出來てゐる |
| 二七 | 上欄 | 關口水道町 | 鑄物師 |
| 二八 | 上欄 | 小學校 | 關口水道 |
| 三八 | 上欄 | 奥附 | 小學校 |

終

